

## 第 13 次 5 ヶ年計画党中央建議のポイント（４）

田中 修

### はじめに

11月4日に、「建議誕生記」が公表された。今回の「誕生記」では、習近平総書記が建議策定プロセスを主導したことが、繰り返し強調されている。本稿では、「誕生記」をもとに、建議の策定過程を時系列的に再整理する。

### 前段階

習近平総書記は、前期の重大課題研究を高度に重視し、自ら課題テーマを批准した。中央は42の単位組織に委託し、31項目の重大課題研究を完成し、117編の特定テーマ研究報告を形成した。

1月 党中央政治局、18期5中全会で第13次5ヶ年計画建議を重点的に検討することを決定

1月28日 中央は、各地方・各部門に対し、5中全会で検討される建議について意見を徴求する旨の通知を发出

中央は、文件起草グループを設立し、習近平総書記を組長、李克強・張高麗を副組長とすることを決定

2月10日 中南海海懷仁堂において、習近平総書記が文件起草グループ第1回全体会議を開催し、建議起草活動について、思想の解放、開拓・イノベーションを堅持し、「耳目を一新し、実用・効果的」な計画建議を書き上げるよう要求

習近平総書記は、起草開始のときから、「第13次5ヶ年計画建議を策定するには、まずどのような発展理念を堅持すべきか明らかにしなければならない。発展理念は、戦略的・綱領的・指導的なものであり、発展理念が正しければ、目標・任務は好く定まり、政策措置もこれに伴って好く定まる」と明確に指摘した。

3月23日 習近平総書記は、文件起草グループ第2回全体会議を開催し、「第13次5ヶ年計画建議は、発展理念の筋道を整理し、はっきりと述べ、第13次5ヶ年計画期間のわが国経済社会の発展のために、好い道を指し示し、好い航行を導かなければならない」と明確に提起

イノベーション・協調・グリーン・開放・共に享受という発展理念は、正に習近平総書記が中国の発展が直面する新たな情況・新たな問題に対して行った時代に沿う回答で

あり、党中央の治国・治政思想の重大な理論的刷新であり、マルクス主義の中国化の最新の成果である<sup>1</sup>。

4月中下旬 文件起草グループは、6日半の時間をかけて、18の部委から31項目の重大テーマに関する成果報告を聴取し、その中の観点・建議を真剣に検討・吸収

5月25日 習近平総書記、浙江省舟山市の新しく建設されたコミュニティーを視察

貧困扶助開発は、常に習近平総書記の最も気にかけている事柄である。

6月16日 習近平総書記、貴州省遵義県の脱貧困に成功した村を視察

2日後、習近平総書記は、貴州省貴陽市で「省区貧困扶助堅塁攻略と第13次5ヵ年計画期間経済社会発展座談会」を主催し、「貧困を消滅し、民生を改善し、共同富裕を徐々に実現することは、社会主義の本質的要求であり、わが党の重要な使命である。第13次5ヵ年計画期間の経済社会発展では、貧困扶助開発の不足部分をしっかり補わなければならない」と強調した。

7月16日 習近平総書記、吉林省延辺州和龍市の村を視察

習近平総書記は、さらにこの前後、浙江省・貴州省で座談会を開催し、18省区市の主要指導者から第13次5ヵ年計画期間の経済社会発展についての意見・建議を聴取

7月末 中央弁公庁は、各省区市、中央・国家機関、解放軍総政治部、各人民団体に対し、建議意見徵求稿を配布

8月12日 天津港で爆発事故発生

習近平総書記は、安全生産の中で暴露された問題を高度に重視し、人民大衆の関心・呼び声に積極的に回答し、建議稿に安全生産責任・管理制度を、人民の生命・財産の安全を確実に擁護する方面の内容を増やすよう要求した。

要求に基づき、建議稿は安全発展理念を充実増加させ牢固に樹立し、安全生産責任制・管理制度を整備・実施し、安全評価・審査制度、事前警告・応急メカニズムを増やし、危険化学品・化学工業生産、倉庫の安全・環境保護・移転等の方面の具体的要求を強化し、安全面での隠れた弊害を遅滞なく厳重にチェックして解消し、重大・特大安全自己が頻発する傾向に断固として歯止めをかけるよう要求した。

8月21日 習近平総書記は座談会を主催し、民主諸党派、全国工商聯指導者、無党派人士から建議意見徵求稿について意見を聴取

---

<sup>1</sup> ゴチックは筆者。

統計によれば、建議稿は 3176 人から意見を徴求した。文件起草グループが受け取った意見・建議は 2588 項目であり、うち党外人士が提起した意見・建議は 92 項目、重複意見を除くと意見・建議は総計 2292 項目であった。

フィードバックされた意見・建議に基づき、建議稿は追加・改訂・文字の簡素化などを 754 ヶ所行い、116 の単位と党外人士の 844 項目の意見・建議をカバーした。うち、党外人士の分は 18 項目である。フィードバックされた意見・建議の吸収率は 32.6%であった。

10 月 12 日 党中央政治局会議第 2 回審議を経て、建議稿はさらに修文・整備され、党 18 期 5 中全会の審議にかける準備が整う

5 中全会期間（10 月 26－29 日） 文件起草グループは、10 の小グループが審議討論した意見に基づき、建議稿を 60 ヶ所余り修文し、党中央政治局常務委員会にかけた

10 月 29 日午後 3 時 5 中全会は、建議草案は、全会一致で承認

260 日・9 ヶ月近く、習近平総書記は文件起草活動を高度に重視し、文献起草グループが上申する各原稿を真剣に校閲し、何度も重要指示を出した。

その間、習近平総書記は、4 回党中央政治局常務委員会、2 回党中央政治局会議を主催し、建議稿を審議し、一連の重要指導意見を提起した。

建議稿起草プロセスにおいて、習近平総書記は、「ある措置は、一目で操作可能で、細目をさらに制定する必要のない方案でなければならない」と指示した。

文件起草プロセスにおいては、李克強・張徳江・兪正声・劉雲山・王岐山・張高麗等の中央指導者も重要意見を提起し、具体的指導を行った。

（11 月 13 日記）